



ガバナーメッセージ 疾病予防と治療月間

国際ロータリー
第2660地区 ガバナー

立野 純三
(大阪RC)



先日、「線虫の寄生によって引き起こされる感染症に対する新たな治療法に関する発見」により、北里大学 大村智特別名誉教授がノーベル生理学・医学賞受賞の明るいニュースが我々にもたらされました。

大村教授は45年にわたり独創的な探索系を構築し、微生物の生産する有用な天然有機系化合物の探索研究を続けてこれ、これまで類のない450種を超える新規化合物を発見されています。発見された化合物のうち25種が動物薬、農薬、生命現象を解明するための研究用試薬として世界中で使われており、人類の健康と福祉の向上に寄与しています。

今回、ノーベル賞の受賞対象となった抗寄生虫薬イベルメクチンは、熱帯地方の風土病オンコセルカ症およびリンパ系フィラリア症に極めて優れた効果を示し、中南米・アフリカにおいて毎年約2億人余りの人々に投与され、これらの感染症の撲滅に貢献しています。さらにこのイベルメクチンは世界中で年間3億人以上の人々が感染しながら、それまで治療薬のなかった疥癬症や沖縄地方や東南アジアの風土病である糞線虫症の治療薬としても威力を発揮しております。大村教授の研究は、毎年世界で何億人もが苦しんでいる感染症と闘う手段を与えて、感染症治療にも多大なる貢献をされておられます。

世界的NGO団体セーブ・ザ・チルドレンは、ミャンマーの地方の農村部でお母さんと赤ちゃんの命が守られるように、地域の保健システムの強化を進めています。その活動の一つが助産師や補助助産師が村の女性たちに健康や栄養についての知識を提供する保険啓発です。補助助産師はお母さんに最も近い存在として、母子保健についてのほか、様々なアド

バイスを行います。

子供に予防接種を受けさせる必要があること、 Deng熱に感染しないように、水が入っている容器はふたをして蚊の発生を防ぐ必要があること、また、医療施設が十分でないこれらの地域では、地域に伝わる伝統的な自宅出産が母親や新生児が感染症にかかり大きなリスクを負わせる危険がある事など、正しい知識を身につけてもらうよう努力をしています。ミャンマーではおよそ20人に1人の子供が5歳の誕生日を迎える前に亡くなっています。また妊婦死亡率は500人に1人と、近隣の東南アジア諸国に比べて高い状況が続いています。ひとつの国の中でも、見過ごせない健康格差が存在する国があります。セーブ・ザ・チルドレンは、すべての人々が、適切な予防、治療、リハビリなどの保健医療サービスを必要な時に支払可能な費用で受けられる「ユニバーサル・ヘルス・カレッジ」の実現が急務ととらえ、2016年に始まる国際社会の共通の目標にも、栄養改善、予防可能な妊婦死亡の削減、予防可能な子供の死亡の根絶、そしてユニバーサル・ヘルス・カレッジの実現が含まれており、その実現にむけて努力をしております。

我々ロータリアンも、自分たちの身近なアジア近隣諸国でたくさんの健康格差があることを認識しなければならぬと思います。まず、現地の実情を的確に把握し、何が必要かを理解し行動を起こしていただきたいと思います。そしてグローバル補助金、地区補助金を活用して現地のロータリーと共同プロジェクトとして、健康啓発活動、予防運動、施設の完備などに携わっていただく事が重要ではないかと思いません。